



21世紀を目指し、明日の音楽教育を考え、全国70余の音楽団体に呼びかけて構成された「音楽教育国民会議」は毎回密度の濃いフォーラムを開き、参加者の高い関心を集めている。

今回は第8回目をむかえ『即興表現の効果的な指導法を求めて』とのタイトルで、去る7月2日日本大学芸術部のA Vホールで開催された。

## ——第8回 音楽教育フォーラム——

# 即興表現の効果的な指導法を求めて

●新教育法開発委員：宮本聖子

音楽教育の原点ともいべき即興表現は、音楽指導者であれば、誰もが興味を抱く部門であるが、その意味が深ければ深い程、またいろいろの問題もかかわりあってくる大変重要な部門でもある。

今回は小学校、中学校、大学、ヤマハ音楽教室の各部門よりパネラーが選出され、各々の教育現場報告はまさに現在日本の音楽教育を一堂に凝縮させたような壮観なフォーラムだった。以下にその一部をご報告する。

### ①「児童の創造性を生かしたアンサンブル活動」

(東京都東村山市富士見小学校教諭：西塚智光氏)

小学校児童を対象とし、非常に具体化された授業例は、ピアノ指導者として興味深いものがあつた。西塚氏は「児童の創造性を生かしたアンサンブル活動」に11段階にわたるカリキュラムを作り、児童のわかりやすい言葉で音楽理論の意義づけをし即興演奏を指導されていた。(表Ⅰ・カリキュラム、表Ⅱ・具体例)

又音楽室には電子ピアノが各グループに3～4台配置され、児童たちはすぐ目の前にある鍵盤にさわり、音を出し、確認しあいながら即興演奏を楽しんでいた。

“児童がアンサンブルを組み立て、創造的に音楽活動をするためには、簡単な和声学を学ばなくてはなりません。しかし、年70時間しかない音楽授業の中で効率よく、和音聴音をしたり、読譜指導をしたり、だれでも出来るようになる鍵盤指導をするには、児童にわかる言葉をつかって、児童の理解しやすい方法を編み出す必要があります。”

西塚氏はこのように最後をまとめられていたが、小学校の音楽教育が綿密化され、「与える教育から自発の教育へ」と具体化されればされる程、同年代の児童に個人的に接する機会の多いピアノ指導者は、これらの教育事情を、しっかり把握していくべきではないかという思いにかられた。

(表Ⅰ)

第1段階	楽譜のこども(旋律)を見て、何調か調べる。 (調性の確認)
第2段階	何調かわかったら、終止形の聴音と記譜。 (終止形の確認)
第3段階	こども(旋律)を見て、お母さん(I・IV・V)叔母さん(V7)を選ぶ。 (和音づけ)
第4段階	旋律の進行につれ、和音がとけあつて聴こえるか確かめる。 (旋律と和音の調和感覚、響きの確認)
第5段階	旋律と和音の進行を感じながら、お父さん(根音)を選ぶ。 (根音の選択)
第6段階	旋律と和音の進行を感じながら、根音もとけあつて聴こえるか確かめる。 (旋律と和音と根音の調和感覚、響きの確認)
第7段階	3つのパートに分かれる。(自分の能力に合ったパートを選択する。 (パートの選択)
第8段階	相談しながら、リズムの改造(工夫)やメロディの改造(変奏)おじさんの工夫(ベースの動き)を同時進行で創作していく。 (メロディの変奏とリズムの工夫、ベースの動き)
第9段階	曲の感じに合った、音色の組み合わせを工夫する。 (楽器の組み合わせ)
第10段階	曲のイメージをふくらませて、前奏・後奏を工夫する。 (イメージの創作)
第11段階	曲のイメージを感じとって、曲想をつけ、曲を完成させる。 (曲想の工夫と曲のまとめ)

(表Ⅱ)

第3段階 こども(旋律)を見て、お母さん・叔母さん(和音)を選ぶ  
…和声づけ

### (1) 三人のお母さんと一人の叔母さん

- ア) 音楽の国には、三人のお母さんと一人の叔母さんがいます。  
イ) 三人のお母さんの名前は、ドミソのお母さん(Ⅰ)と、ドファラのお母さん(Ⅳ)と、シレソのお母さん(Ⅴ)です。  
ウ) シレファソの叔母さん(Ⅴ7)は、シレソのお母さんの親戚です。

と言って説明する。



ドミソのお母さん ドファラのお母さんシレソのお母さん シレファソの叔母さん

## 「サウンド・オブ・サイレンスの授業実践について」

2

(愛知県豊田市立増富中学校教諭：千賀裕子氏)

ここではシンセサイザーを用いた教育実践を報告された。

まず豊田市では平成元年度に市内全小学校52校に6人がけアンサンブルオルガンが7組ずつ配備されるに到ったこと、それに伴い教育的関連も考えて中学校には、学校教育用シンセサイザー〈SDX2000〉が20校に計130台が配備され、小学校中学校一貫しての理想の音楽教育が行なわれるようになった、との話をきき、市当局の困らぬもさることながら、それらを実現させた現場教育者の方々の熱いエネルギーを感じた。

アンプやスピーカーを内蔵、100種類のプリセット音色、イージーエディット、シーケンサーやデジタルエフェクターなど様々な機能をもつシンセサイザーを学校で教具として授業で扱えるとはすばらしいことである。

特に楽器演奏の苦手な男子生徒には、自分がひけなくても、打ち込んでおけば忠実に再現してくれるシーケンサー機能は有効で、シンセサイザーを活用した、アンサンブル学習を通して、創作活動に取り組むことに多くの効果が見られたという。生徒2人に1台という好条件を伺って、「芸術は設備環境」との思いを熱くした。

シンセサイザーの導入によって、千賀教諭がまず配慮したことは3年間見通した指導計画の作成だそうである。

## 3 「アンサンブル発表会」

(授業ビデオ)

どのグループも個性豊かでなかなか創意工夫のされた曲ばかりであった。

表Ⅲ、シンセサイザーの年間機能計画

表Ⅳ、各グループの工夫

## 4 「即興演奏実践報告」

(ヤマハ音楽教室講師：大里安子氏)

即興表現ならず即興演奏で世界中をアツといわせた教育システム講師大里氏の実践報告とつづいた。ちなみに標準音楽辞典(音楽の友社)には「即興表現」の項目はなく「即興演奏」について、「前もって準備された楽譜やスケッチ(暗譜を含む)によらず、演奏者によって直接自発的に生み出される演奏をいう。」と載っている。15才以下の子供たちののびのびとした即興演奏は広くマスコミで紹介され内外共に広い支持を得ているが、幼児科コースでは、動物の絵(例・表Ⅴ)をみながら、その様子を音であらわしたり、鎌賞曲の印象を絵にかいたり、子供たちなりの表現方法で思いを残していくことをポイントとし、文章が書けるジュニア専門コースでは、テキストの中のイラストをみて文章化し、楽譜にしないで音で表現させる方法をとっているとのことだ。

(表Ⅲ)

1年生	①コードの学習 ②シンセサイザーの機能を知る プリセット音色 スプリット機能 ③低音奏、和音伴奏作り
2年生	①シンセサイザーの機能の活用 シーケンサー ②音色の組合せの工夫 ③リズム伴奏作り、対旋律作り
3年生	①音色作り(エディット)バランス(楽器の編成)の工夫 ②前奏、間奏、後奏などの創作 ③変化(曲想)の工夫

(表Ⅳ) 各グループの工夫

班	創作・アレンジ	シーケンサー	グループの特徴
1	ピアノの下 低音 鉄琴パート	低音	音色を統一してバランスに注意 全体は軽くてきれいな曲に
2	主旋律 前奏	ピアノの下	前半は軽い感じ、後半は日本風(三味線、箏)
3	低音 リズム 鉄琴パート オルガン1	リズム	前半は8ビート、後半は16ビート ロック風の楽器を使って現代風に
4	リズム 対旋律	ピアノ オルガン1,2	全体的に不思議な感じ リズムに気合いを入れて
5	リズム 低音 オルガン2 鉄琴パート		SY77のドラム使用 音色をストリングスで統一 前半、後半でイメージを変えて フットペダルで曲にめりはりを
6	対旋律 リズム 間奏	オルガン2 低音	前半オーケストラ風で厚みのある感じ 後半はポップス風で軽いもの
7	前奏、後奏 リズム 対旋律	低音 効果音 対旋律 主旋律	他のグループとは違った感じ 3度目の繰り返しでは、もりあげるために主旋律をシーケンサーに入れて転を

(表Ⅴ)

